

ゲンジボタル 育って光って

海津市下多度小学校の1〜3年生23人が12日、南濃町津屋の「南濃梅園」にあるわき水「梅しみず」で、ゲンジボタルの幼虫の放流をした。梅園を所有する中日本水糖(名古屋市中川区)が初めて実施した活動で、順調にいけば6月ごろに光る成虫が姿を見せそうだ。(今井智文)



同社は近くに南濃工場があり、津屋川そばの社有地に梅園を整備し、池で希少魚ハリヨの保護活動をしている。さらに環境保全を進め、里山らしい環境にしようとして2023年、一角に幼虫の飼育施設「ホテルの館」を設け、一帯で生息する成虫の産んだ卵を育てる

南濃梅園の環境保全活動

活動を開始。2年目は130匹ほどが育ったことから、放流会に児童を招いた。

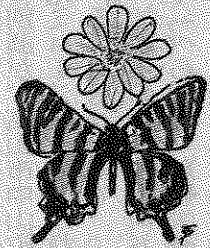
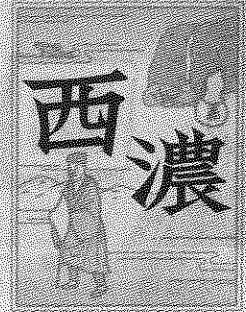
放流では、今回の活動を支援した元福井工業大教授で、NPO法人「日本ホテル再生ねっと」(福井市)理事長の草桶秀夫さん(72)が、児童らにホテルの生態を説明。幼虫が5月ごろに土の中に潜ってサナギになることや、成虫は2週間ほどしか生きられないことを伝えた。

児童は水辺に移動し、紙コップで体長3センチほどの幼虫を放流。水中で丸まっていたり、餌になる貝「カワニナ」を探したりする様子を観察した。

3年の堀田大樹さん(9)は「すぐに貝を見つけて近づいて、すごいと思った」と話し、2年の佐藤光莉さん(8)は「きれいに光ってほしい。また見に来たい」と期待していた。

紙コップでゲンジボタルの幼虫を放流し様子を観察する児童ら。海津市南濃町津屋で

海津・下多度小児童が幼虫放流



春の蝶
中部二科会 鷲見哲郎
(岐阜市若竹町)

大垣支局
〒503-0893
大垣市藤江町6-82-7
0584(78)2030
Fax(74)6460
oogaki@chunichi.co.jp
養老通信局
0584(32)0699
Fax(32)2740
揖斐川通信部
0585(22)1150
Fax(22)0735